

JELC りゅうてる

2006年

7月号

 No.703

日本福音ルーテル教会 婦人会連盟第20回総・大会

>>>>> 6.13 名古屋

6月13日～15日、日本福音ルーテル教会 婦人会連盟第20回総・大会が開催され、第19期連盟会長 泉 洋子姉にご報告いただきました。

6月13日～15日、名古屋クラウンホテルに於いて、第20回連盟総・大会が開催されました。会場は300名余の全国からの参加者に満たされ、東海教区の教職方、そして昨年挨拶を受けた2人の女性教職の協力を頂いての開会礼拝によって開幕。大会記念講演は、日本基督教団塩尻アイオナ教会の横田幸子牧師より、「関係性における愛」と題し、力強いメッセージを頂きました。来日中のサバ神学院パン・ケンピン師ご夫妻及びマレーシア・パーゼル・キリスト教会(BCCM) 婦人会連盟役員3名、また市川一宏ルーテル学院大学学長、江藤直純日本ルーテル神学校校長のご出席もありました。愛餐会では、清水教会員瀧夫妻による手話舞踏等のアトラクションや、各教区からのアピールも会場を沸かせました。最後は晩禱に代えて、ケリ・ペルクワイヤによるハンドベルの演奏を聞き、静かに大会の幕を閉じました。

第2日目の総会は、午前9時より祈りと共に開始され、過去3年間の活動報告と、今後の連盟活動のあり方についての、熱心な討議が進められました。その結果、これまでの「婦人会連盟」は、

「女性会連盟」へと名称を新たにすることが決議され、また、今後3年間の連盟主題は、「キリストの愛に生かされて—わがち合う恵み 紡ぎ合う喜び—」と決定。今期は北海道特別教区からの連盟役員選出が困難という事情により、他の4教区から選出された4名の役員で5役を担うこととなりました。第20期の連盟役員は次の通りです。会長：竹内茂子(東教区)、副会長・書記：棚山昭恵(西教区)、会計：蔵原照子(九州教区)、文書：朝倉三枝子(東海教区)。第3日目の派遣礼拝では、山之内総会議長の司式により、新役員の就任式が行われ、第19期婦人会連盟役員会から、第20期女性会連盟役員会へと、バトンが受け継がれました。参加者は3年後の再会を夢見つつ、新しい足取りで、それぞれの地へと遣わされて行きました。



CONTENTS

目次

- 1.... 婦人会連盟総・大会
平和を願い、平和をつくるものに
クリスチャンのライフカレンダー
- 2.... 牧師の声・信徒の声
求道者の旅16. ケネス・J・デール
- 3.... 詩編を味わう 神こそわたしのすべて
信徒宣言 21, AKTIO
- 4.... 議長コラム、幼保連総会
常議員会、チャリティーコンサート
LCM 会議、教師志願者募集
交換牧師プログラム報告、他

福音版

- 1.... バイブル
メッセージ 「前から後ろから」
- 2.... 心の旅を見つめて 温かく「春」を見守る
HeQi Art 聖書物語
たろこまの子育てブログ

クリスチャンのライフカレンダー③

～ U君へ おじいちゃんより ～

きみは、まだ2歳を少し過ぎたばかりなのに何でも分かっているね。この前は何日もママのいない夜を過ごせてえらかった！そして、ママが退院できて「よかったね」。その夜「もうお寝んねしようね！」と言うと、きみは絵本を持っておじいちゃんのところへ。その時の顔は、不安・真剣そのものだった。「また病院にいらしてしまおう！」と思ったの？「ママは、もうお家にいるんだよ」と言うと、安心してママのところへ。本当にけなげで、いじらしい。宝ものだよ。

もう少し大きくなったら、ふるさと村へ遊びに行こう。あそこは、小川や田んぼや森もあるから、トンボだってチョウチョだってセミだっているよ。みんなみんな生きている。

日曜日は、教会に行こうね。幼児祝福式もあるし、クリスマスのお祝いもある。教会の子どもは、みんなみんな神さまの大切な子どもだよ。神さまは、一人ひとりを大切に见守っていてくださるからね。

平和を願い、平和をつくるものに ～総会で声明文を可決～

「日本国憲法」の前文及び第9条の改定に反対する声明

戦後60年が経ち、今、日本に求められていることは、「戦争放棄」を明記した憲法を持っている、世界で唯一の国として、世界の中でいかにして平和貢献をなしていくかである。

この「日本国憲法」は、第二次世界大戦の反省の上に立って、かつての半封建的な絶対主義的天皇制に立脚した主権在君、軍国主義を完全に否定し、平和主義、主権在民、基本的人権の尊重を根底にして構成されている。この憲法制定の根底には、過去の戦争への深い反省の精神が込められていることを忘れてはならない。

しかし、わが国政府は、アメリカにおける2001年9月11日の同時多発テロ以降、アメリカの単独先制攻撃主義に基づく対イラク戦争の勃発に際し、日米関係を優先して、これに加担し、今日に至っている。

こうした状況下にあつて、自民党をはじめ政府与党は「自主憲法制定」を標榜し、「日本国憲法」改定案を作成し、憲法改定国民投票案の準備を進めている。

殊に、憲法改定推進派の人々には、全面改定を主張することによって、かつてハードルの高かった憲法第9条の改定が一気にできるとの戦術的発想がみられ、平和憲法を護る立場にとっては看過し得ない状況にある。

私たち日本福音ルーテル教会は、過去、戦争を是認し、支持し、加担してきた罪を懺悔し、日本基督教団(鈴木正久総会議長の名によって告白された)「第二次大戦下における日本基督教団の責任についての告白」文書(1967年)の趣意に同意した建議書を総会(1970年)で決議した歴史をもっている。また、「宣教百年信仰宣言」(1993年)において次のように告白している。

「とくに、第二次世界大戦を含め十五年戦争のあいだ、私たちの教会は神のみを神とする十戒の第一戒を守り抜くことができず、また平和を実現するよにとの主の戒めを生きていくことができませんでした。

その結果、私たちの教会は、一九四一年の日本基督教団合同に際して、ルーテル教会の信仰告白をあいまいにし、戦争の勝利を祈り、協力しました。こうして、行なうべきではなかったことを行なってしまった罪と、行なうべきだったことを行なわなかった罪とを、神と隣人の前に、とりわけアジアの人々の前に犯しました。」

私たち日本福音ルーテル教会は、このような過去の戦争への反省と悔い改めから、二度と過ちを犯すことがないようにとの平和への祈りと志から、現憲法の有する平和主義、主権在民、基本的人権の精神が堅持されることを強く望むものである。

特に、憲法第2章第9条 戦争の放棄を謳った第1項、第2項の条文が改定されることに強く反対するものである。

日本福音ルーテル教会は、21世紀の時代、「日本国憲法」の前文と第9条が現に有する理念の具現化こそ、わが国がなすべき世界における国際貢献であり、かつ平和貢献であると確信するものである。ゆえに、我々は、この改定に断固反対する

2006年5月5日

日本福音ルーテル教会第22回定期総会

5月の総会で、「『日本国憲法』の前文及び第9条の改定に反対する声明」が可決されました。これは、昨今の日本政府の動向に危惧を抱く中で、常議員会の呼びかけに応じて、JELCの社会委員会が起草し、常議員会で更に検討され、総会に提案されたものです。

総会では、社会の動向に教会が発言することへ、賛否の意見が双方出されましたが、議論の結果、キリスト者として平和を希求し、神の平和をこの世に実現するために、総会の声明として宣言することが、可決されたものです。

この声明は、総会で文章化するだけではなく、政府機関やマスコミ各社に送付されます。また、JELCの諸活動の中で世界宣教への積極的参加による相互交流、難民支援、平和主日などの国内外の平和キャンペーンなどを通して、実現に向けて取り組まれることになります。

世界宣教では、主にアジアの事を思い、メコン地域での宣教への支援(MMF)や、パレスチナのルーテル教会との交流を通じての平和キャンペーン、それらへのボランティア派遣プログラム、また災害や難民支援が取り組まれています。

総会后、早速パレスチナのミトリ・ラヘブ牧師の招きに応じて、平和交流の準備団がパレスチナの訪問をしました。ラヘブ師の教会・施設や、LWFが運営しているエルサレムのアウグスタ・ビクトリア病院(AVH)を訪問し、献金を連帯献金の中からささげました。11月に、一般参加者も募集し、訪問団を組む予定にしています。詳細は、るうてる次号にてレポートと案内をいたします。是非、ご参加ください。

第3回 ルーテル子どもキャンプ

今年ルーテル子どもキャンプは、8月8日～10日、広島教会を会場に開催されます。テーマは「平和」どうぞ、子どもたちを送りだしてください。また、スタッフも募集しています。佐藤(千葉教会)まで。

2006年8月8日(火)～10日(木)
会場：広島教会 参加費：10,000円(正会員)
主催：平和を実現する人々、等々

http://www.jelc.net/~kokusai/index.html/

http://www.jelc.net/~kokusai/index.html/

発行所 東京都新宿区市谷砂土原町1-1
〒162-0842 電話 03-3260-8631

日本福音ルーテル教会事務局広報室
振替口座 00190-7-71734
ウェブサイト http://www.jelc.or.jp
E-mail jelc@jelc.or.jp
発行人 徳弘浩隆 tokuhiro@jelc.or.jp
印刷人 精文堂印刷株式会社(定価1部40円)

*「宣教百年信仰宣言」の引用文は原文どおり漢数字表記にしています。

教会の宝石を捜して

北海道特別教区 恵み野教会 信徒

さき 幸夫
さき 佐々木



佐々木幸夫大兄の人格を一言で表現するならば、不言実行がらさわしい。六百坪の敷地を有する恵み野教会の空地は草野球ができる程に広いが、夏はタンポポが群生し、冬は一面まっ白

1969年、日本キリスト教団麻生伝道所で29歳の独身の時です。その頃、ある通信教育を受けており、東京でスクーリングがあった1967年8月15日に東京の丸善で聖書を買

受洗はいつですか？

な雪野原となる。その空地の一角は駐車場にもなり重要であるが、草刈り、除雪等も欠かさない。佐々木大兄は夏は草刈り機で、冬は除雪機で一人黙々と作業に励んでいる。持病の心臓を労りながら何年間も当り前のように奉仕を続けて下さっている姿に私達は感謝の念と同時に大きな勇気も頂いている。

好きな聖句と讃美歌は？

ヨハネによる福音書

3章16節「神はその独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」
教団讃美歌90番、教会讃美歌で言えば382番です。同じ曲ですね。「こも神の御国なれば……」讃美歌は教団の方が好きです。

妻はクリスチャンホームの出身で、日本キリスト教団麻生明星幼稚園の先生をしていました。1階が幼稚園で

2階に教会があり、僕達は2人とも青年会のメンバーでした。性格はカッパとしていて僕とは正反対でした。どんな人からも好かれていたと思います。結婚してクリスチャンホームが実現したことは大きな喜びでした。日曜礼拝は家族で出席していました。妻が40歳で召天した時、長女が中1、次女が小5、長男が小3でした。妻は亡くなる2週間前まで礼拝でオルガンを弾きました。

妻が亡くなってから「死」に対してこわくなりました。無我夢中で生活してきてもう16年の月日が流れました。

牧師の声・信徒の声

愛唱聖句と言え、たぐさんありますが、何も考えずに挙げれば、やはり「あなたの出で立つのも帰るのも主が見守ってくださいるように。」今も、そしてとこしえに」という御言葉です。神様がどんな場合でもずっと私の歩みを守ってくださいるという事を確認させられます。

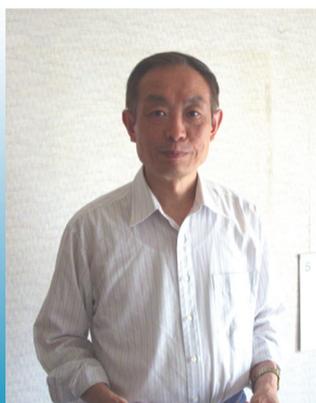
とつて貴重であり、心に刻まれています。なぜ、そんなにも心に刻まれたのかと言え、当時私は初めての出国、しかも一人、未知の地で新しい歩みを始めることに、大変不安と寂しさを感じました。ですから、その聖句を見て、「ああ、一人ぼっちではなく、神様がずっと私と共におられ、私を守ってくださいるのだ」と深く心に響きました。

18年余の歩みを振り返って、神様は本当にその通りに私を守って、導いてくださったことを感謝します。確かに、神様に守られたと言っても、私の希望通りに全てが進んだわけではありませんでした。寧ろ、辛いことをたくさんたくさん経験したと言えます。神様はまさにマイナスのことで通して私を導いてくださったに違いありません。マイナスのこととは、私の希望と逆のことです。ですから、すごく辛かったのです。しかし、それにもかかわらず、神様は確実に私を守り、導いてくださったのです。

神様は見守るお方である事も教えられます。守りとはまずは見つめることのようにです。我が家に今新生児がいます。彼を守るために、親としてはまず彼の一手一投足を見つめること。ですから、私はこの聖句から、神様の私に対する深い愛の眼差しを改めて生き生きと感じる昨今です。

あなたの出で立つのも帰るのも
主が見守ってくださいるように。
今も、そしてとこしえに

詩編 121 編8節



九州教区 鹿児島・阿久根教会 牧師

ホワンダーウェイ 黄 大衛

＜牧師の声＞ 私の愛唱聖句

求道者の旅

『求道者の旅』より抜粋

A SEEKER'S JOURNAL

「被造物がすべて今日まで、共にうめき、共に産みの苦しみを味わっていることを、わたしたちは知っています。(中略)つまり、体が贖われることを、心の中でうめきながら待ち望んでいます」(ローマの信徒への手紙8章22～23節より)

受難節からイースターの間、イエスと聖霊に焦点を当てて参りました。今回から数度にわたり、私たち自身と人間の状態に焦点を移してまいりましょう。キリスト者として人性をどのように理解すべきでしょうか。

逆説的な人性

動物的な願望を除いた人間とはどのようなものなのでしょうか。私には動物的な性質があり、他の動物と同様であることを認めざるを得ません。すなわち、生存のために食べるニーズ(必要性)、血

第16回 私たちの人性のうめき

液の循環、五感、性の相違、生殖による繁殖、出生、老化と死等。そしてこの動物的必要を満たすために備えをしなくてはなりません。

しかし、私は動物以上のものでもあります。人間として特有の能力を持っている事に気が付きます。エネルギーやニーズを有機的に作り上げて行く潜在力、目標や長期的目的を希求し、神に触れているという気付き。自己実現、創造性、愛へと私を駆り立てる霊的なものを具備しています。

これらのものは動物的衝動から発生するわけではありませんが、不幸にして人性と混在して現れます。ここに人間のドラマがあるのです。すなわち苦悶と失敗、勝利と喜び! 「罪」とはこれらの人間の有する能力から離れ、動物的な満足へと向かわせる事なのです。

私の「原罪」

もし救いが信仰によって生きる事を意味し、神

の臨在に気付き、神に信頼する事によって生きる事を意味するのであれば、その逆とは、私たちが霊的次元を常に無視する傾向と、その結果としての絶望ということになります。神があたかもいないかのように生きる事、この事こそが私たちの「原罪」なのです。

私は、朝起きる時、「ウーン、新たな悲惨な一日!」とつぶやきます。この時、信仰は「否! 神はここにおられる、だから希望はここにある!」と答えなければなりません。

原罪は動物的性質の停滞した生活です。本能と衝動によってのみ生き、自己も神をも愛す事はありません。私たちには日々の変容が必要です。洗礼は清められるニーズ、毎朝神を意識するように新しく生まれる事を思い出させてくれます。

(翻訳: 上村敏文)



ケネス・J・デール
ルーテル学院大学名誉教授
引退宣教師

